

1 主 題 沖縄の文化や歴史

2 教材名

3 エイサーの島 沖縄



3 主題・教材について

多くの子どもは、沖縄から「青い海」「青い空」といった美しい自然をイメージするだろう。世界自然遺産として後世に残したいという捉え方もあるだろう。しかし、古来より、受け継ぎ守られてきた独自の文化や歴史を知る子どもは少ないと思われる。

この教材では、運動会で踊る「エイサー」に出会うことをきっかけに、沖縄の文化や歴史について詳しく知ろうとする意欲を高めたい。

沖縄には、「命どう宝（命こそ宝）」という言葉がある。命と平和を何より大切に生きてきた沖縄の人々の思いが強く表れた言葉である。この言葉に込められた沖縄の人々の思いに迫らせたい。さらに、先の戦争で住民を巻き込んだ激しい戦闘により、多くの尊い命が奪われた悲しみの歴史や今なお残る様々な問題等も子どもたちの実態に応じて取り上げたい。

（関連教科・領域：社会、総合的な学習の時間、特別活動）

4 ねらい ・沖縄の文化の素晴らしさにふれることをきっかけに、「命どう宝」という言葉に集約された沖縄の人々の思いを知る。

5 指導計画 第1次 テーマ別に調べ学習をする。
第2次 発表会をする。

6 展開例

第1次

○ねらい 沖縄に関心を持ち、テーマを決めて、調べ学習をする。

過程	主な学習活動	指導上の留意点	備考
導入	「エイサー」について、知っていることや思ったことを出し合う。		「エイサー」の写真など
展	沖縄からイメージすることを出し合おう。 「沖縄」をテーマにイメージマップ（資料参照）を書く。 - 書いたことを発表する。	沖縄に関するものや写真などを準備し、関心を高める。	沖縄に関するものや写真ワークシート
開	沖縄について調べよう。 - イメージマップから発表されたことをもとに、いくつかのテーマを設定する。 - テーマ別にグループに分かれる。 - 調べ学習をする。 - 調べたことをまとめる。	- 自然、言葉、行事、食べ物、音楽、歴史、平和（戦争）等が考えられる。 - それぞれに意欲をもって活動できるように言葉がけをする。 - 分かりやすく伝えるためのまとめ方を工夫させる。	
まとめ	次時の活動を確認する。	発表会に向けて、関心・意欲を高める。	

第2次

○ねらい 自分たちが調べたことを発表し、共有する。

過程	主な学習活動	指導上の留意点	備考
導入	発表会の進め方の説明を聞く。	調べた内容を共有することを伝える。	
展開	発表会をしよう。 - まとめたものをもとに発表する。 - みんなの発表を聞いて、気づいたことや感じたことを発表する。	- お互いに質問をさせながら、発表の内容を深めさせたい。 - 必要に応じて、メモを取らせてもよい。	
まとめ	学習をふり返ろう。 学習を通して、考えたこと、感じたことなどをまとめる。		

◆エイサーとは・・・

エイサーは、沖縄県でお盆の時期に踊られる伝統芸能である。この時期に現世に戻ってくる祖先の霊を送迎するため、若者たちが歌と囃子に合わせ、踊りながら、地区の道を練り歩く。地域によっては、ヤイサー、エンサー、七月舞（しちぐわちもーい）、念仏廻り（にんぶちまーい）とも呼ばれる。

近年では、パーランクーや締太鼓、大太鼓を使用する太鼓エイサーが盛んである。



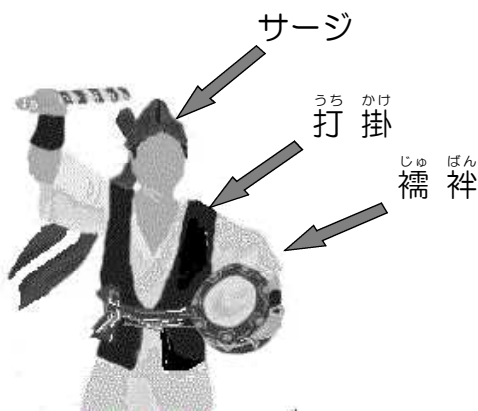
パーランクー



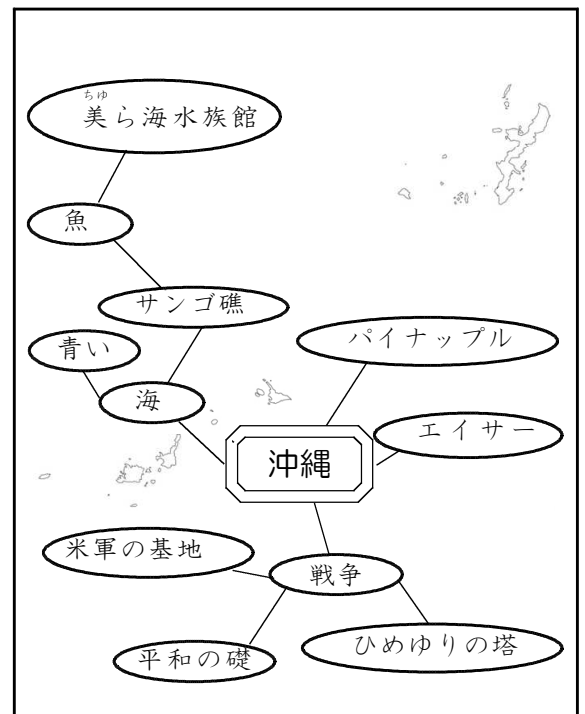
締太鼓



大太鼓



【資料】イメージマップ（例）



イメージマップ作成方法

- 用紙中央に沖縄と書き込む。
- 沖縄から思い浮かんだこと（例：戦争）を周りに書き込み、線で結ぶ。
- そこからさらに思い浮かんだこと（例：平和の礎、ひめゆりの塔など）をどんどん書き込み、線で結んでいく。

◆6月23日（「慰霊の日」）

沖縄戦では、組織的な戦いが1945年6月23日まで続き、県民60万人のうち12万人以上の人がいなくなったといわれている。沖縄県では、多くの尊い生命、財産及び文化的遺産を失った冷厳な歴史的事実にかんがみ、これを厳粛に受けとめ、恒久の平和を希求するとともに、戦没者の霊を慰めるため、県条例により、この日を「慰霊の日」と定めている。

【ワークシート】

エイサーの島 おきなわ 沖縄

名前（ ）

◎ 「エイサー」って何だろう。

◎ 沖縄からイメージすることを書いてみよう。

